

もうすぐ完成！ 備中櫓

やぐら

津山城跡内につち音が響き始めて早3年。新たな津山のシンボルとなる備中櫓がいよいよ完成します。今回は、改めてこれまでの道のりを振り返りながら、備中櫓について紹介します。



完成までのあゆみ

起工式

平成14年1月16日、関係者多数が参加して起工式を行いました。工事が始まりました。



かわら 瓦の制作

瓦づくりは奈良県の業者が担当でした。発掘調査で出土した実物を奈良県まで持ち込み、詳細に復元しました。



原寸

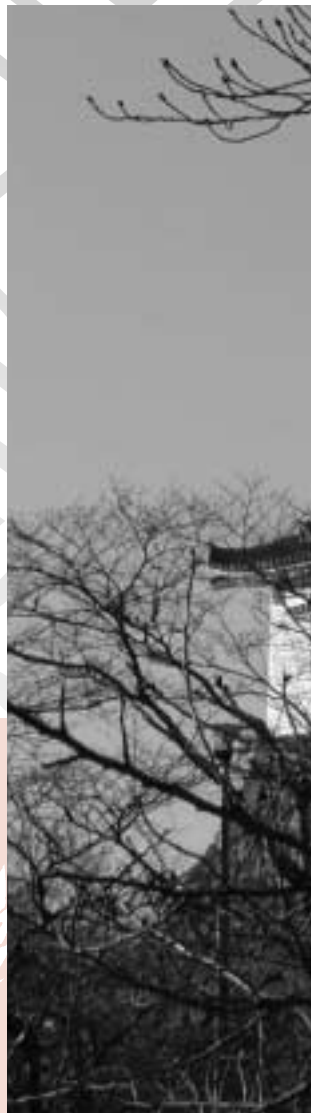
原寸とは、設計図を実際の大きさに拡大し、最終的な確認を行う工程です。この後に、木材が実際の部材として形成されていきます。



基礎工事

備中櫓本体が、江戸時代に積まれた石垣の上に直接載っています。





復元計画のはじまり

備中櫓復元計画のはじまりは、平成9年度に作られた「史跡津山城跡保存整備計画」にさかのぼります。この計画では、20年をかけて津山城跡を整備していく方針が書かれており、その中に備中櫓の復元整備が含まれていたのです。

津山城跡は国指定の史跡であるため、その現状を変更するには国の許可が必要です。とくに歴史的建造物の復元には厳密な学術的根拠が求められ、古写真や歴史資料、発掘調査による裏付けなど、4年の歳月が必要でした。

建て方

基礎の上に木材を組み立てる工程です。基礎の石垣の上には、土台の木が石の凹凸に合わせて加工する「光付け」と呼ばれる手法で設置されています。その上に柱などが載りますが、これらの工程では金物を一切使わず、伝統的な工法で木と木を接合していきます。



素屋根

櫓を建て始める前に、建物がすっぽり入る大きさの上屋を造ります。この中に作業用の足場や部材を運搬するクレーンなどが入ります。



上棟式

本体の柱や梁が完成し、平成15年2月26日、棟の木が上がりました。

